



親子のふれあいを大切にする「親子教室ぼぼクラブ」の取り組み

ひこね21世紀創造プラン

市民がつくる  
安心と躍動のまち  
彦根

1. 人権が尊重され、誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり
2. 良好な環境が整った、快適で安全・安心なまちづくり
3. 活力ある産業に満ちた、にぎわいあふれるまちづくり
4. 明日の彦根市を担う人を育(はくく)むまちづくり
5. 人とひととの交流をひろげ、市民文化を創造するまちづくり

特集

# 現代子育て事情

## ～彦根市の子育て支援～



「親子教室ぼぼクラブ」の様子

子どもに対して「おはよう」「気をつけてね」「おかえり」といった言葉をかけることは、かつてはどの地域でも見られました。しかし現在では、地域や家庭での子育てを支援する力が低下し、全国的な調査でも、乳幼児を抱える親が、子育てに負担や不安を感じている割合が増加していると報告されています。

このような現状を改善するため、昨年7月に「次世代育成支援対策推進法」が制定され、地

域における子育て支援対策が重要な柱と位置づけられました。彦根市では、保育所の整備や、彦根市ファミリー・サポート・センターの設置、児童館や地区公民館でのひろば事業などを実施しています。

また、地域では、民生委員児童委員やNPO法人、多くの子育てサークルが、親子遊びなどを通じて、子育て支援の取り組みを進めておられます。

人により異なりま  
す。このため、子  
育てをしている親  
同士も、互いの接  
点が少なくなっ  
て  
います。



また、私たちの  
生活を便利にする  
道具も、子育てに  
プラスとなるばかりではありませ  
ん。自動車は移動を容易にした反面  
地域と疎遠にさせ、親子が手をつな  
いで近所を歩く機会の減少にもなり  
ました。テレビやゲームの普及は、  
子どもたちから外で遊ぶ楽しさを減  
らしています。

少子化も大きな問題です。子ど  
もの数が減少したことで、地域の子  
どもどうしが遊ぶ機会も減ってしま  
いました。「ぼぼクラブ」には、市  
内の遠くから参加される人もおられ  
ますが、これはそれぞれの地域での  
遊び相手が減ってしまったためでも  
あると考えています。

**お父さんだって  
頑張ってます**

子育ては、母親だけの仕事ではあ  
りません。では、最近の父親の子育  
てへの参加はどの程度でしょうか。  
現状がじゅうぶんであるかどうか  
はともかくとして、私が子育てをし  
た時代と比べると、現在の父親の子  
育てへの貢献度は、格段に上がって

いると思います。「ぼぼクラブ」に  
も、お母さんの休養のために、お父  
さんが参加されることもあります。  
しかし、景気低迷の影響なのか、  
最近はどこも職場も人員を削減して  
いるので、その分、一人ひとりの  
負担が増え、会社勤務をしている人  
は、帰りが遅いようです。  
お母さんたちの中には、「一番の  
子育て支援は、父親を早く家に帰し  
てもらいたい」と言う人もおられ  
ます。

**子育ては楽しいはず**

それでは、やはり子育ては大変で、  
難しいものでしょうか。いいえ、決  
してそんなことはないはずですよ。  
例えば、ときどき「子どもどう  
遊んでいいかわからない」という  
声を聞きます。そんなときには、子  
どもと手をつないだり、抱っこした  
りして、近所に散歩に行きましょう。  
ただ歩くこと、それだけで子どもに  
とっては楽しいことなんです。その  
ためには、歩いていける身近な地域  
に、親子が集まり、遊べる場所が必  
要です。

私たちの次の目標は、それぞれの  
地域で、このような場所ができるよ  
うに支援をすることです。私たちの  
活動を通して、弱まりつつある、地  
域の力を取り戻す、お手伝いができ  
ればいいなと思います。

## 社会の移り変わり子育ての変化

特定非営利活動法人NPOぼぼハウス 久木陽子さん

最近、「子育て支援」という言葉  
を、新聞やテレビなどでよく見かけ  
ます。特定非営利活動法人NPOぼ  
ぼハウスでも、乳幼児の遊ぶ場や、  
子育て中の親同士の交流や相談の場  
を提供する、「親子教室ぼぼクラブ  
(以下「ぼぼクラブ」という、子  
育て支援事業を、11人のスタッフに  
よって、子どもセンターほか、市内  
の4か所を借りて実施しています。  
ここでは私たちの取り組みを通し  
て、昔と今の子育て事情の違いや、  
現在における子育て支援の役割につ  
いて紹介したいと思います。

**子育ての変遷**

20年くらい前までは、まだ3世代  
が同居している家庭も多くありまし



久木さん

た。また、子ども会活動など、家庭  
と地域の接点も、もっと多かったと  
思います。私もこの時代に子育てを  
経験した一人です。当時は、子育て  
をしていて、なにか困ったことがあ  
ると、家族、あるいは地域ぐるみで  
支援する仕組みが自然に出来上がっ  
ていたように思います。

これに対し現在は、核家族化と都  
市化が進み、家庭と地域のつながり  
も希薄なものとなっています。

この結果、子育ては両親、多くの  
場合、母親が支えているのが現実で  
す。このような子育て中の人のなか  
には、不安やストレスを抱えている  
人もおられると思います。

**社会構造の変化と  
子育て**

昔と比べて変わったのは、家族や  
地域だけではありません。もっと大  
きな社会全体の生活スタイルの変化  
も、子育てに対して、少なからず影  
響を与えています。

**私たちが取り巻く社会の変化と  
これからの子育て**

彦根市長 中山一

紙上  
談話室 19

昔の地域では、元気な子どもた  
ちの声があちこちから聞こえてき  
ましたが、今日ではあまり聞くこ  
とがなくなりました。  
近年、出生率は低下の一途をた  
どり、少子化が進んでいます。こ  
のような急速な少子化は、私たち  
の社会に多様な影響をもたらして  
います。

また、核家族化、都市化などを

背景に、家庭を取り巻く環境は、  
家庭の役割・機能を大きく変えて  
きています。特にかつてのような  
大家族に支えられた家庭に見られ  
た機能は、残念ながら低下してい  
ます。核家族化の中で、身近に子  
育てを知ることなく親となり、相  
談相手もなく、育児に対する不安  
や子育ての負担を大きく感じる母  
親が多くなっています。このため  
安心して子どもを産み育てること  
が出来ず、地域社会全体での子育  
て支援が求められています。

一方、男女共同参画意識の高ま  
りと共に、女性の自立や職場進出  
を促しています。また、子どもの  
いる世帯の半数以上の母親は働い  
ています。働いていない母親でも、

半数近くの人は働きたいと思っ  
ています。

このように、女性があらゆる分  
野に進出し、男女が共に働く時代  
になったとは言え、社会一般の意  
識、仕組みや制度の中には、女性  
が家庭にいて子育てをすべきであ  
るといふ考え方が依然として存在  
し、これを変革していく必要があ  
ります。

このような現状から、仕事と家  
庭の両立や地域における子育て、  
また介護支援の拠点として、『彦  
根市ファミリー・サポート・セン  
ター』を、昨年、男女参画センタ  
ー内に設置しました。子育ての手  
助けをして欲しい人と、お手伝い  
をしたい人、介護の援助活動を依  
頼したい人と援助の活動を希望す  
る人がお互い会員になって地域で  
助け合う仕組みです。また利用に  
ついては、早朝から夜間まで、申  
込者のニーズに対応できるように  
なっています。ご利用にあたって  
は会員になっていただくことが必  
要です。ぜひ、多くの市民にご利  
用していただきたいと思います。



# 初めての子育てサークル

「私たちはこうして始めました」

子育てをしている親の間では、親どうしの情報交換や身近な相談な場として、子育てサークルが注目されています。彦根市内にもすでに多くのサークルがあり、様々な取り組みをしています。今回はその中から、子育てサークル「しゅっぽぼ」の立ち上げにかかわった古川扶美子さん（中藪町）に、立ち上げのときの様子などを聞きました。あなたも古川さんのお話を参考に、サークルを立ち上げてみませんか？

子育てサークル「しゅっぽぼ」は中藪西自治会で行われている子育て支援のサークルです。

今から約7年前、私が3人目の子育ての真最中だったころ、同じように子育て中の4、5人のお母さんと子どもを遊ばせながら、子育てをしている人が、もっと集まることのできないかと話していました。

そこで平成8年の秋に、自治会で発行している自治会ニュースを通じて、この地域で子育てをしているお母さんに向けて「週1回、親子で集まって遊びませんか」と呼びかけたのです。すると、予想を超えるたくさんの人から「ぜひ参加したい」という声が返ってきました。このため、最初の予定を約3か月早めて、平成9年の1月から活動を始めました。

4月になると参加者も定着し、名称も今のように「しゅっぽぼ」と決まり、週1回の活動を始めました。活動場所は主に近くの公園や自治会館でした。自治会館を快く貸してもらえらるなど、地域ぐるみでの支援は本当にありがたいことでした。

もっともスタートはしたものの、経験や知識のないお母さんたちが運営で、すべてが手探りでした。七夕や、クリスマスなどの、季節に関し



古川さん

たり組みと、お誕生日会は、毎月の行事として決まっています。が、ほかの日は、活動の内容を考えるのにも苦労しました。そんなときには、他のサークルの取り組みを参考にしました。どうしても考えつかないときは、新聞紙で遊んだこともあります。大人の感覚からすればつまらないようにも思いますが、3歳くらいの子どもにとっては、ただ新聞紙を破ることも楽しいのです。

なによりも、子育てサークルの一番の目的は、親子で家から出て、親どうしで悩みを話し合ったり、子どもと遊び場をつくることです。特別に何かすることを決める必要はなかったのだと思います。

サークルの運営も、あまり固定した役割は決めず、そのときにできる人が、できることをするというやり方が、結局一番うまくいきました。そのときは運営に参加できなくても、次の子どもときに頑張ってください。次の人もおられます。「しゅっぽぼ」はこうして毎年バトンタッチをしてきたのです。



スタートしたころの子育てサークル「しゅっぽぼ」の様子

私自身が「しゅっぽぼ」に携わったのは1年だけです。しかし、1年の間、他の多くのお母さんたちと話す機会を持つことができました。つまらないことも、だれかに聞いてもらうことでストレスは発散できます。また、初めての子育てをするお母さんにとっては、同じ立場の人や、子育て経験者の話は、とても参考になったのではないのでしょうか。彦根市内のそれぞれの地域で子育てサークルがもっと盛んになり、楽しく子育てができるまちになればいいと思います。

## 彦根市ファミリー・サポート・センター

をご利用ください

地域での育児や介護を支援するために設置された、彦根市ファミリー・サポート・センターもスタートから2か月が経ちました。センターは、子育てと介護・仕事の両立で困ったときや、支援が必要なときに、子どもを一時預かりや、高齢者の家事援助など、アドバイザーが調整したサービスを提供会員を通じて提供します。ファミリー・サポート・センターをぜひご利用ください。

なお、サービスの利用にあたっては、利用登録が必要です。

詳しくはセンターまでお問い合わせください。支援の内容の例

- ・保育園・幼稚園などの送迎の預かり
- ・保育園などの開始前・終了後の預かり
- ・保護者の病気や急病のときの預かり
- ・原則として提供会員の自宅で預かります。
- ・宿泊での預かりはしません
- ・高年齢者の食事の準備、掃除、洗濯などの家事の援助
- ・高年齢者の通院や買い物などの外出の付き添い
- ・高年齢者の安全確認訪問
- ・自宅に訪問します。
- ・専門的な知識が必要な介護は行いません。

申し込み・お問い合わせ先  
〒510-0801 彦根市ファミリー・サポート・センター(平田町) 男女共同参画センター(ウイズ内) ☎2439220 番(FAX共)



## 次世代育成支援 地域行動計画

策定します

次世代育成支援対策は、今、子育てをしている人、そして、これから子育てをする人たちが、楽しく子育てができるように、地域企業を含む社会全体で支援して行くためのものです。

昨年7月に「次世代育成支援対策推進法」が成立し、それぞれの自治体は、平成17年度からの5か年を期間とする「地域行動計画」を策定することを義務づけられました。

彦根市では、子育てサークルの支援など、すでに、地域における子育て支援事業を進めています。今後は、これらの既に始まっている取り組みも含めて、子育て支援のためのサービスが、市内のすべての地域に広がるよう、計画的に取り組むことが必要です。

また、次の世代を育成するために必要な施策は、福祉サービスをはじめ、教育、雇用、都市計画、建設、環境など、市政の様々な分野にわたります。そのため、この地域行動計画は、それらのすべてにかかわる横断的なものとなります。

彦根市では、今年度この行動計画策定のため、どのような施策が必要か調査を実施しています。その結果や、これまでの取り組み実績を踏まえ、平成16年度中に具体的な行動計画を策定する予定です。

お問い合わせ先 児童家庭課 ☎95990 番 FAX ☎1768番

## ファミリー・サポート・センター 利用者の声

川浪聖子さん（長曾根南町）

現在は、週に1回程度、ファミリー・サポート・センターを通じて、子どもを提供会員さんの家で預かってもらっています。センターに調整してもらった提供会員さんは、皆さん優しく接して下さいます。私が子どもを預ける提供会員さんは、小さいお子さんのいない人ばかりですが、古いおもちゃを出して遊んでくださったり、お絵かきをしてくださったりするので、子どもも大変気に入っているようです。

また病気で病院に行くときなどは、病院の近くの提供会員さんを紹介してもらえるのもありがたいことです。

サービスの終了時には報告書がもらえ、その日どんなふうに過ごしたか分かるようになっていきます。

子育てサークルにも参加していますが、病院への通院など、子どもを連れて行けないときに利用できるファミリー・サポート・センターはとても便利です。

子育てをしている皆さん、ファミリー・サポート・センターを利用してみませんか。